

# 中小企業診断士の視点

第71回  
今すぐできるDX はじめの一步



中小企業診断士 古澤 登志美  
(一社)埼玉県中小企業診断協会

DX（デジタルトランスフォーメーション）とは、デジタル技術を活用して事業価値を高めることです。ただDXの必要性を理解していても、「どこから手を付ければよいのか」、「大規模なシステム導入が必要なのではないか」といった疑問や不安からなかなか踏み出せない事業者様も多くあるようです。そこで本稿では今まであまりIT導入に縁の無かった事業者に向けて、コストが少なく導入も容易で効果の高い、3つのステップをご紹介します。

## ステップ1. クラウドストレージの活用

最初に活用したいのが、クラウドストレージです。クラウドストレージとは、インターネット上にあるファイル保管場所です。Microsoft社のOneDrive、Apple社のiCloudのように、デバイスのバックアップ用に設定されている場合もあります。他にDropboxなどもよく利用されています。無料プランもありますが、チーム向けの有料プランを契約することで、アクセス権を詳細に設定できる等、より安全に運用できるようになります。社内での情報共有はもちろん、社外との連携も可能です。外出先や在宅勤務時にもファイルを閲覧・編集できるようになり、飛躍的に生産性を向上できます。

## ステップ2. ペーパーレス化

クラウドストレージを使っても、社内の情報がすべて紙で管理されては、ファイルとして保存することができません。長年にわたって蓄積してきた大量の紙情報をデジタル化する際に必要なのは、ADF（Automatic Document Feeder 自動ページ送り）機能搭載のスキヤナです。複合機にもスキヤン機能はありますが、高速で読み取り精度の高いスキヤン専用機をぜひ導入してください。機種にもよりますが、1分あたり30~40枚ものスピードで、両面・片面印刷が混在していても自動判別しながらデジタルデータ化し、予め指定したフォルダに自動保存することが可能です。保存されたPDFデータは文字検索もできるようになります。4~5万円ほどの投資で、社内の業務フローを大きく改善できます。

## ステップ3. クラウドアプリの活用

クラウドアプリにも様々な種類がありますが、まず試していただきたいのはGoogleが提供している無料のアプリ群です。中でもクラウド版の表計算ツールであるGoogleスプレッドシートは、複数人が同時に編集可能で、Excelファイルを社内で共有するような場面で特に力を発揮します。無料アンケートツールであるGoogleフォームと組み合わせて利用すれば、受注業務などにも活用範囲が広がります。

DXは小さく始めることが成功への近道です。中小企業診断士はDXの進め方について、貴社の事業内容や、そこで働く人に合わせたご提案ができます。ぜひお気軽にご相談ください。

### 【問い合わせ先】

(一社)埼玉県中小企業診断協会

ホームページ：<https://sai-smeca.com/>

電話：048-762-3350

Eメール：[rmcsai@nifty.com](mailto:rmcsai@nifty.com)